

■ 出品目録

No.	分類	名称	所蔵	員数	形状
1	曼荼羅	胎蔵曼荼羅	富山県立山博物館	1幅	チベット軸装
2		金剛界曼荼羅	瞑想の郷	1面	額装
3		両界曼荼羅	明通寺	2幅	紙本金地着色
4		薬師如来の曼荼羅	天理大学附属天理参考館	1枚	未表装
5		「薬師経法」の砂曼荼羅	千里文化財団	1基	砂絵
参考		立体(秘密集会)曼荼羅	瀬戸敦朗氏制作	1基	ペーパークラフト
6		阿閼九尊曼荼羅	個人蔵 当館保管	1幅	チベット軸装
7		寂靜忿怒百尊	天理大学附属天理参考館	1枚	未表装
8	ツォクシン	身口意具足時輪曼荼羅	個人蔵 当館保管	1面	額装
9		ラムリムのツォクシン	個人蔵 当館保管	1幅	日本軸装
10		三道宝階降下図	個人蔵 当館保管	1枚	未表装
11		デルゲ版三道宝界降下図	瞑想の郷	1面	額装
12		薬師如来	個人蔵 当館保管	1面	額装
13		極楽浄土図※	個人蔵 当館保管	1幅	チベット軸装
14		極楽浄土図※	個人蔵(福井市)	1幅	日本軸装
15		デルゲ版極楽浄土図	瞑想の郷	1枚	版画
16	如 来	無量寿仏※	個人蔵 当館保管	1幅	日本軸装
17		無量寿仏※	個人蔵(福井市)	1幅	日本軸装
18		阿弥陀如来	個人蔵 当館保管	1枚	未表装
19		十一面観音	個人蔵 当館保管	1幅	日本軸装
20		デルゲ版十一面観音	瞑想の郷	1枚	版画
21		十一面千手観音	個人蔵(福井市)	1幅	日本軸装
22		デルゲ版十一面千手観音	瞑想の郷	1枚	版画
23		十一面観音曼荼羅	瞑想の郷	1面	額装
24	菩 薩	具密流文殊智慧薩埵	個人蔵 当館保管	1幅	チベット軸装
25		白色文殊菩薩とラム僧	個人蔵 当館保管	1面	額装
26		白傘蓋仏母	個人蔵 当館保管	1幅	チベット軸装
27		二十一種ターラー菩薩	個人蔵 当館保管	1幅	チベット軸装
28		ヘーヴァジュラ九尊	個人蔵 当館保管	1枚	未表装
29		忿怒黒色ヴァラーヒー	個人蔵 当館保管	1面	額装
30		ブルバ	個人蔵 当館保管	1枚	未表装
31		デルゲ版ブルバ	瞑想の郷	1枚	版画
32	守護尊・ 忿怒尊	ヴァジュラバイラヴァ	個人蔵(福井市)	1幅	日本軸装
33		六臂マハーカーラ	個人蔵 当館保管	1幅	チベット軸装
34		十六羅漢と四天王	個人蔵 当館保管	1面	額装
35		パドマサンパヴァ	個人蔵 当館保管	1幅	チベット軸装
36		パクパ	個人蔵 当館保管	1幅	チベット軸装
37		ツォンカバ	個人蔵(福井市)	1面	額装
38		タントンギェルボ	個人蔵 当館保管	1幅	チベット軸装
39		八十四成就者	天理大学附属天理参考館	1枚	未表装
40	祖 師	ゲルク派の祖師図	個人蔵 当館保管	1面	額装
41		大解脱經典	個人蔵 当館保管	1冊	経本

※No.13と16は3月22日～4月14日、No.14と17は4月16日～5月6日までの展示となります。

■ 関連行事

ギャラリートーク（当館学芸員による展示解説）	やさしい仏像拝観講座 「日本の仏画とチベットの仏画 －阿弥陀・観音を中心に－」
毎週日曜日と、 4月27日（土）・29日（月・祝）・ 5月3日（金・祝）・4日（土・祝）・6日（月・振休） 各日14時より約45分間	4月6日（土）14時～16時 講師：藤川明宏（当館学芸員） 定員：80名（聴講無料・当日先着順）
記念講演会 「チベットの仏教美術」	ワークショップ 「砂絵でオリジナルカードを作ろう!」
4月20日（土）14時～16時 講師：田中公明氏（(公財)中村元東方研究所研究員） 定員：80名（聴講無料・当日先着順）	4月29日（月・祝）13時～、14時～、15時～ 定員：各回15名（当日先着順） 参加費：100円

『展示解説シート No.74』
平成25年3月22日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 0776-21-0489
Fax 0776-21-1489

担当：藤川明宏

印刷／小川印刷



福井市立郷土歴史博物館

FUKUI City History Museum

展示解説シート No.74

平成25年春季特別展

うるわ

麗しきチベットの仏たち

ほとけ

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 2階企画展示室
- 会期 平成25年3月22日(金)～5月6日(月)

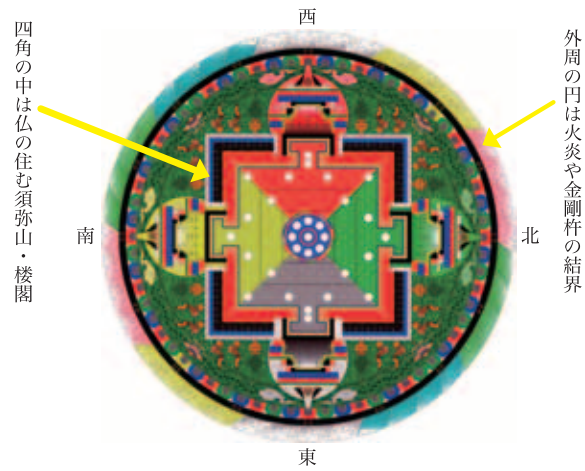
曼荼羅(マンダラ)とは

曼荼羅は、如来、菩薩、護法尊などさまざまな仏を、一定の幾何学的パターンに配置し、仏教の世界観を表した宇宙図＝コスモグラムです。マンダラ(mandala)とは、サンスクリット語で輪円あるいは道場・壇(仏を供養する場所)を表す言葉で、漢字では音写して「曼荼羅」「曼陀羅」と書きます。

曼荼羅は描かれる際の設計図となる根本經典によって中心に表現される主尊や、仏の配置パターンが変わってきます。日本密教の基本的な曼荼羅である「胎蔵(界)曼荼羅」と「金剛界曼荼羅」はそれぞれ、『大日経』と『金剛頂経』に基づいていますが、チベットではさらに発展した密教聖典＝タントラを基にして描かれた曼荼羅が多くみられます。

主な密教經典と曼荼羅

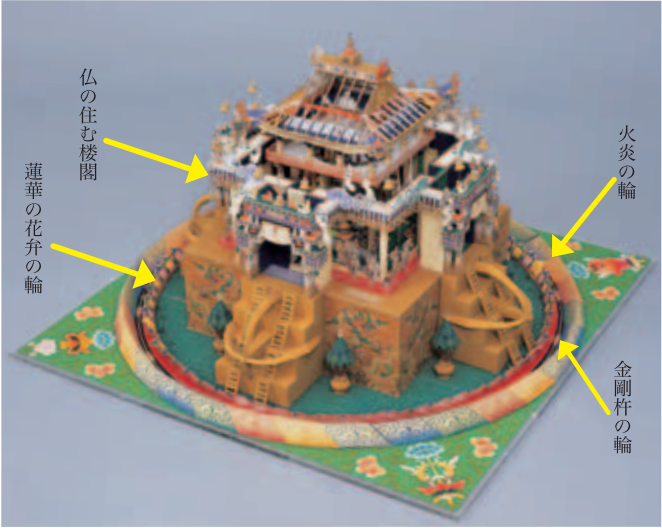
時代区分	チベット新訳派の四分節		主な密教聖典	主な曼荼羅
初期密教	所作タントラ			「薬師経法」の曼荼羅
中期密教	行タントラ		『大日経』	胎蔵曼荼羅
	瑜伽タントラ		『金剛頂経』 『悪趣清浄タントラ』	金剛界曼荼羅 一切智毘盧遮那曼荼羅
後期密教	無上瑜伽 タントラ	父タントラ	『秘密集会タントラ』 『ヴァジュラバイラヴァ・タントラ』	『秘密集会』曼荼羅 ヴァジュラバイラヴァ
		母タントラ	『ヘーヴァジュラ・タントラ』 『サンヴァラ・タントラ』	ヘーヴァジュラ九尊 サンヴァラ六十二尊
		不二タントラ	『時輪タントラ』	身口意具足時輪曼荼羅



この図は『秘密集会』曼荼羅の図像を表したものです（図は田中公明『曼荼羅グラフィックス』2007より引用）。インドやチベットの曼荼羅は、このように外周の円と内側の方形、そして中央部分の区画から成立しており、非常にシンメトリーなデザインとなっています。内側の方形内は仏の住む須弥山、そして楼阁を表し、曼荼羅の主尊を始めとする尊格が整然と配置されています。また周囲の円は、仏国土を守る結界を表し、火炎や金剛杵が描かれています。方角は画面の下が東、左が南、上が西、右が北となります。



身口意具足時輪曼荼羅 個人蔵 当館保管



左図の『秘密集会』曼荼羅を立体化させた立体曼荼羅です。外周円の結界、内側方形内の楼阁の様子がよく理解出来ます。

病を癒す仏
薬師如来

やくしによらい



No.12「薬師如来」より

身体の色は青色です。
病氣平癒を叶える仏として
広く信仰されています。



鉢…托鉢などに用いる。

右手には「アルラ」という薬草を持っています。

（日本の薬師如来は薬壺を持つことが多い。）
※左手には鉢を持っています。

東方妙喜世界の教主
阿閼如来

あしゆくによらい



No.6「阿閼九尊曼荼羅」より

身体の色は青色です。
後期密教で多く登場する如来です。



金剛杵

右手は地面に手を付ける触地印。
※

左手は膝上で仰向け、掌の上に金剛杵を立てて持っています。
※

※仏が表す手のジェスチャーを「印」「印相」と言います。

西方極楽浄土の教主
阿弥陀如来

あみだによらい



No.14「極楽浄土図」より

身体の色は赤色です。
無量の光を発することから「無量光仏」とも呼ばれます。

両手をお臍の前で重ね合わせ、法界定印を結び、その上に鉢を載せています。
※



法界定印

長寿の仏
無量寿仏

むりょうじゅぶつ



No.17「無量寿仏」より

身体の色は赤色です。
阿弥陀如来の化身と考えられています。

瓶に入った「甘露」は不老長寿の妙薬です。

両手をお臍の前で重ね合わせ、法界定印を結び、その上に甘露を入れた瓶を載せています。

国土を守る女性の仏
白傘蓋仏母

びやくさんがいぶつも



No.26「白傘蓋仏母」より

三面八臂の姿で、中央の手はシンボルである白い傘を持ちます。
「白傘蓋仏頂陀羅尼」という呪文を仏格化した女性の仏です。なおこの呪文は「楞嚴呪」として日本の禅宗寺院でも唱えられています。

左の脇手は宝幢、矢、索を持っています。

右の脇手は法輪、弓、鉤を持っています。

観音の瞳から生まれた女性尊
ターラー菩薩

ぼさつ



No.27「二十一種ターラー菩薩」より

ターラー菩薩は主に白色か緑色の姿で表され、この画像は緑色ターラー菩薩です。
商売繁盛などに利益があるとされます。

両手には蓮華を持ちます。

観音菩薩の瞳から生まれたという女性尊で、観音菩薩の救済から漏れてしまった人も救ってくれる仏として、チベットでは絶大な人気を誇ります。

インドの神から仏教の護法尊へ
マハーカーラ

ごほうそん



No.33「六臂マハーカーラ」より

背中に象の皮をはおり、左手はそれぞれ髑髏杯、三叉戟、索を、右手は曲刀、髑髏の数珠、ダマル（でんでん太鼓のような楽器）を持っています。
一面六臂の忿怒の姿で、身体は黒色。チベットのマハーカーラにはたくさんさんの異像がありますが、この画像は六臂マハーカーラです。

元々はヒンドゥー教の神でしたが、仏教に取り入れられその守護神となりました。サンスクリット語で、マハーは大きい、カーラは黒を意味することから、中国では「大黒天」と訳されました。

人々を救う慈悲の仏
十一面観音

じゅういちめんかんのん



No.19「十一面観音」より

右の脇手は数珠、法輪、与願印です。
合掌した手は宝珠を持っています。
八本の手（八臂）を持ちます。
※

※仏像用語で顔を数える時は「面」、手を数える場合は「臂」を使います。

観音の慈悲の力を表す千本の手
十一面千手観音

じゅういちめんせんじゅかんのん



No.21「十一面千手観音」より

基本の八臂や十一面の配置は、左の十一面観音と同じです。

脇手の残り九九二本は与願印で、何も持ちません。手には一つ一つに目が描かれています。

身体の色は黄金色です。

ニンマ派の祖師
パドマサンバヴァ



No.35「パドマサンバヴァ」より

8世紀後半、吐蕃のティソンデツェン王に招かれたインドの大密教行者。チベットでは「グルリンポチェ」（尊師狎下）と呼んで尊崇されています。

サキヤ派五祖の一人
パクパ



No.36「パクパ」より

13世紀の高僧。モンゴル帝国のフビライ・ハーンに信認され、帝師に任ぜられてチベット全土の支配を委ねられました。

ゲルク派の開祖
ツォンカパ



No.37「ツォンカパ」より

ツォンカパ(1357～1419)は、現在チベット仏教で最も大きな勢力を持つゲルク派の開祖。密教だけでなく、戒律護持や論理学を重視し、チベット仏教を集大成した偉大な学僧です。